



世界自然遺産を守るために知っておきたいこと

小笠原の抱える問題と対策

人によって他の土地から持ち込まれた外来種の影響により、小笠原固有の生きものの数が急激に減っています。現在、本来の生態系を取り戻すために、関係機関と地域住民が協力しながら、外来種を排除する取組みが進められています。



固有植物を食べるノヤギ



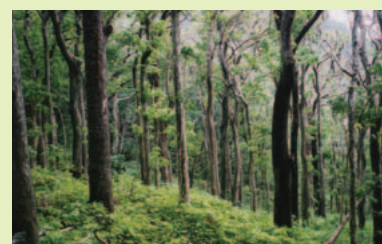
追い込みによるノヤギの捕獲



陸産貝類を食べるニューギニアヤリガタリクスムシ



靴裏洗浄による拡散防止(母島沖港)



在来の樹林をおいやってできたアカギ林



薬剤注入による枯殺

小笠原の自然を守りましょう

外来種の侵入を防ぐために

日本の本土から小笠原に広がるおそれのある、植物や動物、土や土のついた苗などを持ち込まないようにしましょう。



土の中に含まれる雑草

外来種を広げないために

山の中や他の島に行くときに、靴の裏や服、荷物に、種や小さな虫などがくっついたりまぎれ込んだりしていないかチェックするようにしましょう。



遊歩道入り口での外来種除去

固有種の生息場所を守るために

遊歩道やきめられたルートの利用ルールを守り、ルートから踏み出さないようにしましょう。



エコツアーリズムの様子(南島)

World Natural Heritage Ogasawara Islands

■お問い合わせ

東京都小笠原支庁土木課 〒100-2101 小笠原村父島字西町 TEL:04998-2-2123 FAX:04998-2-2302

平成23年7月 制作・発行：東京都小笠原支庁 写真提供：石川均/加藤英寿/苅部治紀/千葉聡/社団法人日本森林技術協会

登録番号(23)第2号 編集：株式会社 ブラック研究所 デザイン：有限会社 長島デザイン事務所

世界自然遺産
小笠原諸島



World Natural Heritage Ogasawara Islands

世界自然遺産
小笠原諸島





World Natural Heritage Ogasawara Islands

世界自然遺産 小笠原諸島

小笠原諸島の自然の成り立ち

小笠原諸島は島の誕生以来、一度も大陸と陸続きになったことがない海洋島であるため、海を越え、島にたどり着くことができた限られた生きもののみが、競争相手が少ない中で島内に広がっていきました。



小笠原諸島の自然環境と適応した生きもの

父島や兄島では、乾燥した気候に適応して進化した数多くの固有植物からなる「乾性低木林」を見ることができます。一方、母島では雲や霧による湿った気候に適応した「湿性高木林」を見ることができます。また、それぞれの樹林では、その環境に適応、進化した数多くの固有種が生息しています。小笠原の植物の36%、陸産貝類の95%が小笠原でしか見ることのできない固有種です。



乾性低木林(兄島)



湿性高木林(母島)



シマイスノキ

◀乾燥した気候に適応した小さく厚い葉をもつ固有植物



アニジマイナゴ

▶シマイスノキを食樹とする固有昆虫



マルハチ

◀湿潤な気候を好む大型の固有シダ植物



オガサワラチビクワガタ

▶湿性高木林の朽木などに生息する固有昆虫

小笠原諸島は、ここでしか見られない特殊な生態系が評価され、平成23年6月に世界自然遺産に登録されました。世界遺産委員会の審議では、小さい島でありながら、小笠原でしか見ることのできない固有種の割合が高いこと、特に陸産貝類や植物において、進化の過程がわかる貴重な証拠が残されていることが高く評価されています。日本国内では、屋久島、白神山地、知床に次ぐ4番目の世界自然遺産となります。

小笠原で見ることのできるさまざまな進化の形

陸産貝類の多様性 ~生息場所に適した進化~

小笠原にたどり着いた陸産貝類は天敵や競争相手が少なかったため、島の様々な場所に広がり、生息場所に適した形へと進化しました。そのため、小笠原で確認されている在来陸貝120種のうち、95%にあたる114種(平成23年7月時点)が固有種です。



カタマイマイの仲間は木の葉や幹、地面などの生息場所に適した形へと進化し、多くの種に分化しました。樹上性の種は殻の背が高く小型で葉に似た色、半樹上性の種は扁平、地上性の種は背が高く地面に似た色であることが特徴です。

ユニークな形の陸産貝類

小笠原ではカタマイマイの仲間以外でも、多様な進化を遂げたユニークな陸産貝類を見ることができます。



ヘタナリエンザガイ



オガサワラオカモノアラガイ

落ち葉の裏に貼り付きやすいように進化

湿潤な環境に適応して殻が退化

雌雄の分化 ~オスとメスに分かれた植物~

一つの花に雄しべと雌しべがある花を「両性花」といいます。小笠原では、もともと両性の花を咲かせる植物が、独自の進化を遂げて、オスの花をつける株とメスの花をつける株に分かれるよう進化したものがあります。これは、安全に多様な子孫を残すための工夫だと考えられています。



ウラジロコムラサキ



ムニンアオガンビ

草本の木本化 ~草から木へと進化した植物~

もともと草である植物が、海洋島という特殊な環境の中で、木へと進化することがあります。小笠原諸島では、キキョウの仲間であるオオハマギキョウ、キクの仲間であるワダンノキ、ヘラナレン、ユズリハワダンが草から木へと進化しました。



オオハマギキョウ



ワダンノキ



ヘラナレン



ユズリハワダン

※写真掲載種は全て小笠原固有種